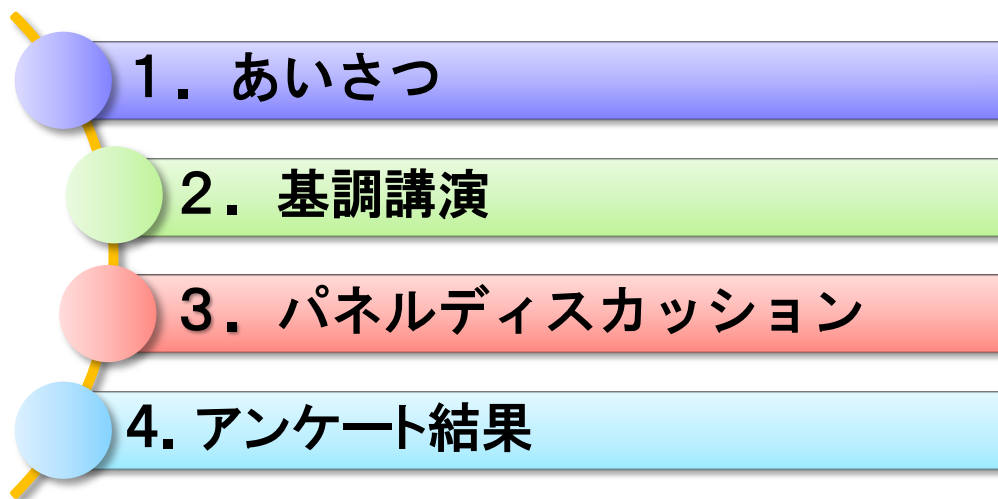


# 与那原町

## 新たなまちづくりシンポジウム

### Report

- 
1. あいさつ
  2. 基調講演
  3. パネルディスカッション
  4. アンケート結果

令和元年12月

与那原町企画政策課



与那原町町制施行70周年記念事業

## 新たなまちづくりシンポジウム

～ みんなで創ろう 活気あふれる 美らまち与那原 ～



と き 令和元年11月24日(日) 午後3時

と ころ 与那原町観光交流施設

### 次 第

#### 1. 開 会

2. あいさつ 与那原町長 照屋 勉

#### 3. まちづくり基調講演

テーマ 「小粒でもキラリと輝く東海岸の星・与那原町の過去・現在・未来」

講演者 琉球大学教授 堤 純一郎 氏 (与那原町総合計画審議会会長)

#### 4. パネルディスカッション

テーマ 「与那原町の目指すべき姿と新しい時代のまちづくり」

コーディネーター 堤 純一郎 氏 (琉球大学教授 / 与那原町総合計画審議会会長)

パネリスト 照屋 勉 氏 (与那原町長)

山内 和実 氏 (与那原町総合計画策定住民会議会長 / 江口区長)

立津 さとみ 氏 (沖縄県文化観光スポーツ部参事)

知花 聡 氏 (沖縄県保育士・保育所総合支援センター長)

仲宗根 正 氏 (沖縄県南部保健所所長)

#### 5. 閉 会



# 基調講演者・パネリスト略歴

## 基調講演 / コーディネーター



堤 純一郎 氏 (つづみ じゅんいちろう)

(琉球大学工学部教授 / 与那原町総合計画審議会会長)

長野県上田市出身。九州芸術工科大学卒業。昭和62年に日本学術振興会特別研究員、平成元年に東和大学助教授、平成5年に琉球大学工学部助教授を経て、平成14年から琉球大学工学部教授となり都市・建築環境工学をはじめ、環境全般に関わる研究に取り組んでいる。また、学術研究のかたわら、沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会委員長、沖縄県地球温暖化対策実行計画協議会会長、沖縄県リサイクル資材評価委員会委員長、那覇市環境審議会会長、宜野湾市建築審査会会長といった数多くの行政の委員会等の委員を務め、専門的な立場からまちづくりに関する提言を行ってきた。平成29年からは与那原町総合計画審議会会長として第5次与那原町総合計画の策定に携わった。著書に建築環境工学(森北出版)、都市環境のクリマアトラス(ぎょうせい)、建築と都市の緑化計画(彰国社)、島嶼地域の新たな展望(九州大学出版会)等がある。

## パネリスト



照屋 勉 氏 (てるや つとむ)

(与那原町長)

与那原町出身。順天堂大学卒業。昭和60年に与那原町税務課採用。以後、与那原町教育委員会社会教育課、企画室、総務課などを経て、平成16年度から総務課参事、平成18年度に企画財政課長、平成19年度から総務課長を務める。その後、平成25年3月に退職し、同年4月から与那原町教育委員会教育長、平成26年8月から与那原町副町長を歴任。平成30年5月より与那原町長に就任。現在1期目。



山内 和実 氏 (やまうち かずみ)

(与那原町総合計画策定住民会議会長 / 与那原町江口区長)

与那原町出身。久留米工業大学卒業。昭和63年に株式会社OASメンテナンスに入社。以後20年余り民間企業に勤め、平成21年から江口区長となる。江口まつり、江口区民運動会など子どもから大人まで楽しめる活動を通して地域の活性化に取り組んでいる。また、与那原町体育協会役員、与那原町防犯協会会長、与那原大綱曳実行委員会委員長、総合計画策定住民会議会長などを務め、与那原町のまちづくりに尽力している。



立津 さとみ 氏 (たてつ さとみ)

重要施策：「大型MICE施設」関連有識者

(沖縄県文化観光スポーツ部参事 / 一級建築士、建築基準適合判定資格者)

沖縄市出身。琉球大学工学部建設工学科卒業。昭和59年に沖縄県入庁。建築課、住宅課、南部土木事務所などを経て、平成27年度に沖縄県土木建築部建築指導課長、平成29年度に沖縄県企画部参事、平成31年度から沖縄県文化観光スポーツ部参事となる。これまでに建築確認や開発許可等の建築行政、駐留軍用地跡地利用計画の推進に係る業務に携わるほか、那覇市やうるま市の建築審査会委員を務めた。現在は、大型MICE施設整備や周辺受入環境整備に向け取り組んでいる。



知花 聡 氏 (ちばな さとし)

重要施策：「子どもの貧困対策」関連有識者

(沖縄県保育士・保育所総合支援センター長)

石垣市出身。琉球大学法文学部社会学科卒業。これまで、沖縄県学童保育連絡協議会会長、沖縄の子どもを貧困から守る連絡協議会共同代表などを務め、長年に渡り児童福祉の向上に努めてきた。平成25年にNPO法人沖縄県学童・保育支援センターを設立し、沖縄県や市町村から児童福祉に関する事業を受託して子育て支援事業を行うほか、同じく平成25年から沖縄県保育士・保育所総合支援センター長として、待機児童の解消に向けた取組を行っている。また、浦添市陽迎橋(ようげいばし)自治会長として地域の子どもの居場所づくりにも積極的に取り組んでいる。著書に沖縄の子どもの貧困白書(共著・かもがわ出版)等がある。



仲宗根 正 氏 (なかそね ただし)

重要施策：「生涯健康づくりの推進」関連有識者

(沖縄県南部保健所所長 / 医師)

那覇市出身。長崎大学医学部卒業。県立中部病院で臨床研修。昭和63年に沖縄県入庁。南部保健所医師として勤務。平成9年度に名護保健所長、平成15年度に沖縄県福祉保健部健康増進課長、平成17年度に沖縄県福祉保健部保健衛生統括監。その後、中央保健所、宮古福祉保健所、北部福祉保健所を経て、平成30年度から南部保健所所長となる。これまでに県適正飲酒推進調査委員会、沖縄市こどもの生活等に関する調査協議会、厚労省母子保健情報の利活用に関する研究班等で沖縄県健康状況とその社会的要因の調査と対策に取り組んでいる。

## あいさつ / 与那原町長 照屋 勉

「与那原町新たなまちづくりシンポジウム」の開催にあたり、照屋勉与那原町長よりご来場の方々へあいさつを申し上げられました。照屋町長は、あいさつのなかで「70周年の節目と期を同じくして、今年度よりスタートした第5次与那原町総合計画は、町民のまちづくりに対する強い想いが詰まった計画となっております。」と述べられたほか、これからのまちづくりについて「総合計画に掲げた施策を着実に実行し、町民1人ひとりが幸せを実感できるよう、一層邁進していく所存でございますので、ご来場の皆さまにおかれましては、与那原町の未来に想いを馳せ、これからのまちづくりにご理解とご協力をお願い申し上げます。」と述べられました。

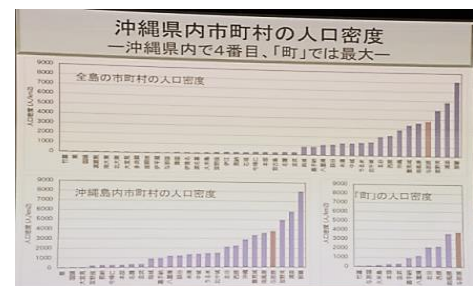


## 基調講演 / 琉球大学工学部教授 堤 純一郎 氏

シンポジウムの第1部は、「小粒でもキラリと輝く東海岸の星・与那原町の過去・現在・未来」と題し、琉球大学工学部教授の堤 純一郎 氏（与那原町総合計画審議会会長）より基調講演が行われました。基調講演では、始めに与那原町の面積や人口などを数値化して他市町村との比較をグラフで分かりやすく説明されたほか、与那原町の歴史的な特徴、自治体総合計画の変遷と第5次与那原町総合計画の概要や特徴についてご講演いただきました。



**堤氏** 与那原町の面積は、本島内で1番小さく県内でも渡名喜村に次ぐ面積の小さな自治体です。人口は、2万人弱で県内の自治体としては中間的なポジションです。人口密度は、沖縄県内41自治体の中でも上から4番目です。町と名の付く11の自治体の中ではトップとなり、人口密度が一番高い町ということになります。与那原町の歴史的な特徴は、まず最初に与那原大綱曳が挙げられます。



16世紀から続くこの大綱曳が大きなシンボルになっていると伺っております。それから、与那原町は19世紀頃から赤瓦の生産拠点として現在でも琉球村の展示民家や遠く石垣島でも与那原産の赤瓦が使われていると伺っております。残念ながら焼失してしまった首里城の再建の折には、与那原町の力を見せて頂ければと思います。次の与那原町の歴史的な特徴としては、近代建築の建築物として聖クララ修道院があります。戦後の早い時期にアメリカの有名な建築事務所が設計した歴史的に非常に価値がある建築物なので大事にして頂きたいと思います。

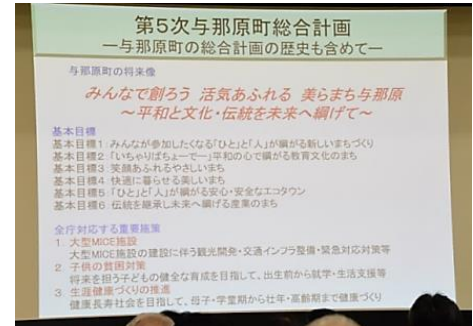


次の特徴は、かつての与那原は江戸時代から昭和初期にかけ北部より山原船が寄港し、積荷を首里まで運ぶための玄関口でした。大正時代に入りますと軽便鉄道的那覇・与那原間の開通や馬車鉄道が交差する陸上交通の要衝となりました。現在でも国道329号線が那覇方面から中部方面に伸び、また、国道331号線との結節点となっており交通の要衝というのが与那原

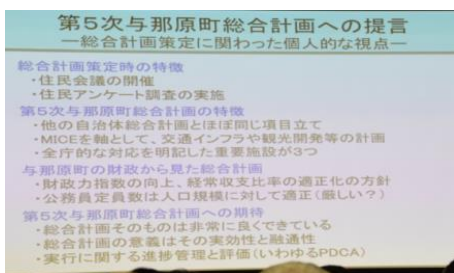
の非常に大きな特徴でございます。

続きまして、自治体総合計画の話に移ります。自治体総合計画は、1965年に地方自治法の改正があり、自治体総合計画の策定について構想期間は10年間とし、基本計画の期間はその半分の5年間、その下に3年間程度の実施計画を策定しなさいと法律のなかで義務化されました。与那原町は第1次から第4次まで策定しておりますが、2011年に再び地方自治法が改正され、地方自治の主権を尊重するため総合計画の策定は自主化・条例化されました。その後、第5次総合計画策定に向けて2018年に検討を進め、今年度から第5次総合計画がスタートしたということでございます。

第5次与那原町総合計画では、まちの将来像を「みんなで創ろう 活気あふれる 美らまち与那原～平和と文化・伝統を未来へ綱げて～」と掲げて



おりますが、将来像は概念的なものでキャッチフレーズ、あるいは標語の様なものです。特徴的なのは大綱曳の綱にかけて「繋げて」ではなく「綱げて」と表現しています。また、全町（全庁）体制で推進する重要施策として「大型MICE施設」、「子どもの貧困対策」、「生涯健康づくりの推進」の3つを掲げたことは、他の自治体の計画と異なる特徴的な計画です。



最後に、第5次与那原町総合計画に期待するところは、総合計画そのものは非常に良く出来ていると思います。そのうえで、総合計画の意味はその実効性と融通性にあると思います。融通性とは、総合計画に記載が有るからやらなければならないとか、総合計画に無いから出来ないということではなく、融通性をもって解釈して臨機応変な対応も自治体として大事だと思い融通性と申しました。

実行に関する進捗管理と評価ですが、常にこれを気にして取り組まないと自治体として本当にこの施策が住民のためになっているのかどうか分らなくなりますので、その点を顧みてやっていただきたい。いわゆるPDCAサイクルで進捗管理と評価の体制を維持していただけたら、今後、より良い与那原町となるものと信じております。

## パネルディスカッション

シンポジウムの第2部は、「与那原町の目指すべき姿と新しい時代のまちづくり」と題し、総合計画に掲げた3つの重要施策に精通する有識者として、立津さとみ氏（沖縄県文化観光スポーツ部参事/大型MICE施設関連有識者）、知花聡氏（沖縄県保育士・保育所総合支援センター長/子どもの貧困対策関連有識者）、仲宗根正氏（沖縄県南部保健所所長/生涯健康づくりの推進関連有識者）の3名と、総合計画策定に携わった住民を代表して山内和実氏（総合計画策定住民会議会長/江口区長）、そして照屋勉与那原町長によるパネルディスカッションを行いました。

コーディネーターは、基調講演に引き続いて堤純一郎氏に務めていただきました。

**堤氏** これから約1時間に渡りパネルディスカッションを行いたいと思います。このパネルディスカッションの趣旨は、今回策定しました第5次与那原町総合計画をより実効性の高く素晴らしいものにしていくために、有識者の皆さまにご意見を

## パネルディスカッション

伺いたいということ、実行計画を補填する様な提案があれば伺いたいということでございます。それでは、パネリストの皆さまの自己紹介も兼ねてそれぞれの総合計画に対する考えをお聞きしたいと思いますので照屋町長からお願い致します。

**照屋町長** それでは、私から先ほど堤先生からもありましたが総合計画の話をもう少し砕いて「総合計画とは何ぞや」というお話をしたいと思います。まず、昭和53年に第1次与那原町総合計画、その後、平成3年に第2次、平成13年に第3次、平成23年に第4次、そして今年度第5次の総合計画を策定しております。先ほど、堤先生からお話もありましたが1次から4次までの総合計画は地方自治法の規定により議会に上程し、議会の承認を得て総合計画を策定しなければならないという義務がありました。しかし、第5次の総合計画から策定する義務はないのですが我々は様々な議論を経て、やはり「策定するべきだ」という結論に達しましたので、策定しなければならないという条例を制定し、第5次総合計画を策定した訳でございます。



総合計画は、3つの層から成ります。基本構想、基本計画、実施計画でございます。基本構想は10年後を目標にしまして、基本計画は前期・後期と5年間で区切り目指すまちの実現に向け施策を実行していきます。それから、実施計画は毎年策定しております。当然、実施計画になりますと予算が伴いますので実施計画を基にどのような施策を実行して5年後の基本計画にどう刷り込んでいくか、そして

基本構想をどの様に実現していくかということを実施計画のなかでより細かく計画・事業等を立てております。

「総合計画ってなんなの？」と言われたときに、端的に申し上げると「10年後どんなまちにしたいのか。実現するために何をすべきか。」を住民の皆さまとまちの姿を一緒になって考え、そして、我々が目指すまちを設定することが総合計画だろうと考えます。



さて、この総合計画の役割ですが、大きく分けて3つになろうかと思います。まず、目指すべきまちの姿が描かれておりますので我々行政の道しるべになります。そして、国や県、広域的な市町村の連携や調整を行うときの基盤となります。

それから、住民や事業者の方々ともまちづくりのビジョンを共有する役割があろうかと思います。

第5次与那原町総合計画の特徴は、先ほど堤先生からお話しもありましたが全町（全庁）体制で推進すべき重要施策を3つ掲げております。もう一つの特徴として、目標を数値化しました。例えば、公共交通の施策ですと公共交通空白地に居住する人口の割合を現在の13.0%から5年後には7.0%へ減らしていこうということでございます。この様に、それぞれの施策の目標を全て数値化したというのが今回の総合計画の特徴でございます。

最後に、この総合計画は、全課全職員の行動指針になろうかと思います。総合計画には与那原町の問題・課題が全て書かれておりますので、職員が迷ったり、あるいは今後の予算に活かすときに総合計画に立ち返る訳でございます。また、財政運営の指針にもなろうかと思います。限りある財源ですので有効的に活用するための目的と合致した予算配分の基礎となります。それから、人事運営の指針ともなろうかと思います。職員の適材適所、施策を実施するためにどの職員をどの課に配置するか、あるいは人事評価のなかで各職員が担当する業務をどの程度出来たかということでございます。それら全てをPDCAサイクルで回していき職員がしっかりとマネジメントできる様な核としてこの総合計画がある訳でございます。以上が、私からの総合計画に対する考えでございます。

## パネルディスカッション

**山内氏** 皆さんこんにちは。今回、総合計画策定住民会議の会長を務めさせていただきました山内和実といいます。宜しくお願いします。住民会議では部会を4つに分け会議を進めてまいりました。まず、健康福祉部会、教育文化部会、総務財政部会、産業建設部会でそれぞれ2～3回の会議を進めまして、全体会議を5回行ってまいりました。その住民会議や住民アンケートのなかで出た意見を集約して総合計画が出来たと思います。この総合計画を基に、安心・安全で誰もが住みやすい与那原町に向かっていけたらと思います。



**立津氏** はいたいぐすーよーちゅうがなびら。沖縄県文化観光スポーツ部の立津やいびん。島くとうばの普及と推進も当部の所掌事務の1つですが、この場は標準語でご説明させていただきます。今回の第5次与那原町総合計画に全町（全庁）体制で推進すべき重要施策として「大型MICE施設」を位置付けていただき感謝いたします。沖縄21世紀ビジョン基本計画にあります大型MICE施設を核とした戦略的なMICE振興を図る施策を与那原町と連携して取組んでまいりたいと思います。すでにご存じとは思いますが、まずはMICEについて再確認いたします。MICEとは、企業などの会議を示すミーティングのM、報償・研修旅行を示すインセン

ティブのI、国際機関や学会などの会議を示すコンベンションのC、展示会や商談会などを示すエキシビジョンのEの総称となります。国におけるMICE振興の位置付けは、国としてMICE誘致を推進することとしています。直近5年間の県内でのMICEの開催状況は、年々増加しており昨年度は1,238件となっております。規模別の開催状況は、100人未満が約6割ですが、一方で1,000人以上の大型案件は85件となっております。既存施設の規模や稼働状況の制約から新規の大型案件の取りこぼしが生じております。



マリンタウン地区に建設を予定している県内最大規模の大型MICE施設へのアクセスは、周辺の県道浦添西原線、国道329号の与那原バイパスや南風原バイパス、那覇空港自動車道を延伸する小禄道路が整備中となっており、将来に向けてアクセス性は高まると見込んでおります。大型MICE施設の機能は、30,000㎡の展示場、7,500㎡の多目的ホール、2階を含め20～30室の中小会議室のほかに、2,000台規模の立体駐車場を整備する計画となっております。30,000㎡の展示場の利用イメージは、最大1,656区画設けた展示会の開催が可能となります。7,500㎡の多目的ホールのイメージは、5,000人規模の学会の会議や、着座スタイルで4,000人規模のパーティーの開催が可能となります。大規模イベント時は、展示場と多目的ホールを一体的に利用することで最大40,000㎡の展示会に対応することが可能となります。これは、この与那原町観光交流施設アリーナの約34個分の広さとなります。大型MICE施設による経済波及効果と雇用効果は、平成29年6月時点の試算値でMICE開催を通じた主催者、参加者、出展者の消費支出や関連事業支出は、MICE開催地域を中心に大きな経済効果が期待されます。開業12年目の目標達成時における効果は、大型MICE施設の周辺ホテルの宿泊などで年間約603億円、雇用効果は年間約



7,873人と試算しております。大型MICE施設整備に向けたこれまでの経緯と今後の進め方ですが、現在、整備の財源やPPP/官民連携事業方針の調査検討を行っているところであり、スケジュールを含めできるだけ早期に事業計画を整理することとしております。

## パネルディスカッション

最後に、大型MICE施設本体に留まらないエリア全体のまちづくりがMICEの魅力を高め、MICEエリアのブランド力の向上に資することとして、みどりの歩行空間や親水ネットワーク、マリナーやビーチを活用した空間、交通結節点を結ぶ回遊空間など、MICEエリアが来訪者だけでなく地域の方々もともに楽しめる交流と賑わいのある豊かなまちに向けて与那原町とともに目指してまいりたいと思います。

**知花氏** 皆さんこんにちは。私は、沖縄県保育士・保育所総合支援センターでセンター長を務めております。簡単にセンターを紹介しますと、確か今日の朝刊だったと思いますが、沖縄県の待機児童の解消が2年延びるとの社説がありました。この待機児童をゼロにするためのセンターでございます。今から約6年前にセンターが設立された当時は、9,000人の定員増をしたら待機児童がゼロになると言われてましたが、ニーズ調査など詳しく調べた結果、18,000人に増えました。私たちセンターは市町村や保育所と一緒に頑張って定員を25,000人増やしましたが、それでも未だに1,700人の待機児童がいて大きな問題となっています。



また、沖縄で保育士の資格を持っている人は約23,000人ですが、保育現場で働いている人は約11,000人程度です。センターでは、保育士資格を有するが保育所で働いていない、いわゆる潜在的保育士が保育の現場に復帰をするサポートしております。その他に、待機児童を解消するためには保育所をたくさんつくらないといけないということで、沖縄に300以上ある認可外保育所が認可保育所になるための支援や、事業所内に保育所をつくる事業、保育士の労働環境を改善する事業などを行っています。

普通、待機児童が問題となるのは大都市圏なのですが、地方で唯一待機児童が問題となっているのが沖縄県です。その原因は、戦後の沖縄の歴史です。アメリカ統治の27年間で児童福祉の財政的な基盤整備の遅れにより認可保育園をつくるのが出来ない状況が続いたことが沖縄県が唯一地方で待機児童が問題となっている原因です。あわせて、今日のパネルディスカッションと関連する子どもの貧困も一緒です。今から約10年前、子どもに関する色々な実態調査の報告を受け、当時は子どもの貧困なんて言葉はありませんでしたが、県の中央児童相談所の職員だった山内氏とどうにかしなければいけないということで子どもに関わるPTA連合会など様々な団体に呼びかけをして「沖縄の子どもを貧困から守る会」を山内氏と共同で代表となって立ち上げました。そして、沖縄県、内閣府、国会の各政党にも要請を行ったことで、沖縄特別委員会の皆さんが調査を行った結果、これは対策をしなければならないということで現在に至る子どもの貧困対策がスタートしましたそれから約10年ほど経って色々な取り組みがされていますが、まだまだ問題は山のあるので、与那原町のこれからの施策に反映させていただきたいと思います。

また、私は仕事をしながら地域の自治会長も務めておりますが、恐ろしいことに今の幼稚園児や小学生で美ら海水族館に行ったことがない子が半数以上いるのが現状だと思います。行く家庭は行くが、行かない家庭は本当にいかない。最近あった相談では、中学1年生の子のことで部活の部長と副部長が自治会に相談に来ました。その内容は、生徒の母親からの手紙で「子どもを部活から辞めさせてください。」と書いていました。この部活は全国大会にも出場するほどの有名な部なんですけど、「それが続く」と困る。だから辞めさせてほしい。」という訳です。こういう子が沖縄には3人に1人、貧困率29.9%です。別の調査では25.8%もありますけれども、少なくとも4人に1人はそういう家庭環境の子なんだということが実際に子育て支援をすると見えてきます。子どもたちを育てることが与那原町の次の10年。未来を創る10年じゃないかなと今思っております。という立場で、少しでも答弁に参加出来ればなと思っております。宜しくお願いします。



## パネルディスカッション

**仲宗根氏** 南部保健所の仲宗根と申します。このシンポジウムに参加させて頂きありがとうございます。このシンポジウムでは3つの重要施策の関わり合いというのが1つの狙いだとお聞きしておりますので、その関わり合いに関する調査結果を少し紹介したいと思います。健康というのは、今の我々の分野のトレンドは、地域社会と一緒に全体で考えなければならない。健康は狭い分野だけではダメだ。ということと、与那原町の総合計画にもありましたが、繋げる。人と人を繋ぐということが健康にはすごく大事だということ分かってきているということです。これは、先ほどの話にも関連しますが、親が子どもの育て難さを感じる時に、いくつか要因がありますが、こ



こでは環境の要因についてお話ししたいと思います。では、どんなことが環境の要因になっているかという、相談できる人がいないというのが関連すること、父親が育児参加しないということ、母親に負担が掛かっているということであり、健診の場でお母さん達に「この地域で子育てしたいですか。」と聞いた時に、「そう思わない。」とか「どちらかというと思わない。」と答える方々の中には、育て難さとか、子どもに対して「私、虐待しているかもしれない。」と思う人が増えてくるということで地域との繋がりは非常に大事だということが分かってきております。

沖縄市の例を挙げると、沖縄市が市独自で子育ての環境に関する調査ということで、乳幼児から高校生までの子どもとその保護者について調査をしております。ここでも、子どもの健康と言うと生活習慣だけを考えがちですが、親の子育ての悩みとか子育てをする自信が持てないといった自尊心にも関連がある。実際の日常の活動で、習い事ですとか、色んな図書館とか動物園とか美ら海水族館とか、そういう所に行った経験にも温度差があり、所得階層に関連がある。そういうことが市レベルで分かってきており、実際に沖縄市は小地域ごとの対策が大事ということで取組んでいます。

この様に、今、健康の分野で非常に重要視されているのは、健康の意識の高い人をさらに高くするというよりも、無意識無関心層とか、賃金の格差と同様に健康の格差も広がってきており、その格差を縮めるためにどうするかということが大きなテーマになっています。その1つの対策として地域の繋がりを強めることが非常に大事です。これは、県の健康おきなわ21という計画にも謳われております。健康の分野では、今はそういうことがトレンドである、そして私はそういう仕事をしているということをお伝えしたいと思います。



**堤氏** どうもありがとうございました。パネリストの皆さまの自己紹介を兼ねました総合計画に対するコメントをいただきました。それでは、あまり時間がありませんので、まず大型MICE施設に関する取組についてお話を伺っていききたいと思います。大型MICE施設は県の施設として出来ますが、地元の自治体としてこの大型MICE施設をどの様に生かしていくか、それに関連する産業についてどの様にお考えなのか、照屋町長にお伺いしたいと思います。

**照屋町長** 大型MICE施設は県の重要施策として進められており、21世紀ビジョンに県土の均衡ある発展と謳われているなかで、東海岸地域では大型MICE施設は重要な位置付けであろうかと考えております。しかし、大事なのは大型MICE施設周辺を含めたまちづくりだと思っております。ですから、大型MICE施設はあくまでも手段であって最終的な目的ではないと考えます。大型MICEエリアの振興に関する協議会もございますので、そういった協議会を通して我々の目指すまちづくりと一体となって大型MICE施設が出来る様これからもしっかりと県と協力しながら取り組んでいきたいと考えております。

## パネルディスカッション

**堤氏** 逆に、県の立場から大型MICE施設が出来ることにより与那原町にプラスにもマイナスにも成り得ると思いますが、その点を立津様からこの大型MICE施設をどの様に地元で馴染ませていくのか、あるいは与那原町としてどの様に関わりを持って欲しいか、県の立場から一言お願いしたいと思います。

**立津氏** 大型MICE施設は施設単体だけのものではなくて、やはり周辺のまちづくりが非常に重要だと思っております。さきほどもまちづくりビジョンだとか少しご紹介しましたが、まち全体がやはりMICEの来訪者にとっても魅力を高める重要な視点になってくると思っていますので、そういった意味で県としても地元の皆さまと一緒にまちづくりの観点から進めていければ非常に良いなと思っておりますので、その点与那原町にはご協力をお願いしたいと考えているところです。

また、MICEの運営にあたって施設だけではなく、例えば、地元の商工会の皆さまや自治会、市町村などとも様々な協議をしまして地元向けの文化会を開催したりとか、地元の方々とMICE来訪者の交流の場を設けたりとか、そういった広がりを持ったMICEになる様に努めてまいりますので引き続きご協力をお願いしたいと思います。

**堤氏** どうもありがとうございます。地元の立場として、住民がどの様に使っていくか、又は、どの様に使ってみたいかという様な地元としての期待を山内様からお伺いしたいと思います。



**山内氏** そうですね。各地域の大きな行事に利用したいと考えているかと思えますけれども、心配なのがそれに係る費用とかです。

後は、よそから来られる方の交通の利便性とかそういった部分とそれによる交通渋滞が町民としては心配であります。自分たちが利用できるかは、施設が出来てみないと分かりませんが、日本や世界の大型イベントがここに来た場合に町民にとって良いイベントだったなと終わった時に感じたら良いと思います。

**堤氏** どうもありがとうございます。それでは、次の柱であります子どもの貧困対策について、先ほど知花様から細かくお話がありましたが、さらに付け加えて与那原町に期待するところなどありましたら知花様からお願いしたいと思います。

**知花氏** 実際に子どもの貧困対策に取り組んでいると、切れ目のない支援というか社会的な関わりが必要だなと思っております。沖縄の最大の弱点は、3歳から幼稚園に入れる施設がとても少ないということです。3歳になったら保育園から幼稚園に移る状況を各市町村が出来たら社会的な支援は完璧に出来る様な状況になります。それが小学校からだともう遅すぎるんです。そういう意味で、今回の総合計画の中身で言うと「妊娠期からの切れ目のない支援（妊娠期から乳幼児期）」と「教育支援（学童期）」というのがあります。でも、中身を読んでもとちらかという保育園のことで、全ての子が3歳から社会的な支援の対象になっているんだという制度設計をして頂けたら、より良い与那原町になると思います。



## パネルディスカッション

**堤氏** ありがとうございます。3つ目の柱が生涯健康づくりの推進、今回の総合計画の特徴として生涯健康づくりを幼少期から高齢期まで一貫してという目標がございます。その点を含め仲宗根様からアドバイスを頂けたらと思います。

**仲宗根氏** 生涯健康づくりと言うときに、スタートはお母さんが妊娠した時、あるいはその前からという話になりますが、先ほどの話とも共通に言えるのは、どこか健康になるために保健センターや病院に行くという話ではなく、日常の生活で地域との交流を増やしていくということをどの世代でも意識していくことが大事です。子どもの世代でも青年期・壮年期でもお年寄りでも、何か目的がある訳でもなく、例えば、お茶を飲みにくとか雑談するとか、そういう場を設けることで健診や予防接種だとか役所の通知だけでは自分からアクセスしない人たちにも地域の繋がりで情報が伝わって行く様な仕組みが必要だと思います。例えば、住民会議を5回ぐらい開催していますが、そういう仕組みが非常に大事だと思います。



**堤氏** どうもありがとうございます。生涯健康づくりには色々な方々が関わられると思います。その点で、例えば立津様からスポーツのこととか宜しければお願いいたします。



**立津氏** 2つが繋がるかどうかは分かりませんが、例えば、まちづくりのなかでMICE施設の周辺にグリーンの歩行者空間を創ったり水辺空間を創ったり、MICEの来訪者が楽しんで、見てまちを回る。町民の方々も同じ様にこのエリアを散策したりといったことを通じて健康の増進に繋がるのではないのでしょうか。あるいは、スポーツに関するMICEがあったときに地域向けの交流の場を設けて活用するといったことも1つ考えられるのかと思います。

**堤氏** ありがとうございます。住民を代表として山内様から子どもの貧困対策、あるいは、生涯の健康づくりに対するなにか期待感などコメントございましたらお願いいたします。

**山内氏** 子どもの貧困ということで、朝食を食べさせるための食堂とか宿題をさせようとか、そういう場が増えてきていることは大変良いと思うのですが、やっぱり子どもの貧困というのは親と子の関係がものすごく大きいと思います。そのなかで、いかに行政や自治会が入っていくかということですが、なかなか入っていけない苦しい部分もあり、そういった家庭に入っていける仕組みがあると良いのではないかと思います。

スポーツに関しては、各区でバレーなり野球なりチームはありますが、若い世代がなかなか参加せず高齢化が進んでいるので情報を共有する場があることが大事だと思います。

**堤氏** ありがとうございます。照屋町長、色んな意見が出ました。期待感も高いと思います。また、この総合計画は6つの基本目標と3つの横断的な重要施策があり、素晴らしいのですが難しい構成にもなっております。その点で、これを実行していく最高責任者としての意気込みを一言お願いしたいと思います。

## パネルディスカッション

**照屋町長** 今、パネリストの皆さんからそれぞれのお立場でお話がありました。これを我々は全町（庁）体制で進めていく訳ですが、やはりそれぞれのお話を聞いても「交流」というのが1つのキーワードになると思っております。そのなかで、人とひとが綱がる。それを綱げていくための仕掛けが総合計画に網羅されている施策を実施し、数値化した指標をしっかりと検証していきながら「みんなで創ろう 活気あふれる 美らまち与那原」という理想のまちの実現を目指して取り組むべきところ



だと思っております。先ほど、堤先生からもありましたとおり与那原町は非常に狭隘なまちで東浜を含めても5.18km<sup>2</sup>しかない訳ですが、それを逆手にとってよりコンパクトなまちを目指しております。この狭隘なまちに高校や大学もあり全国的に見ても稀有なまちだと思っておりますので、そういうことを逆手に活かして人とひとが綱がっていく、綱げていく、総合計画を通して職員一丸となって進めて行きたいと考えております。

**堤氏** どうもありがとうございました。本当は時間なんですけど、せっかくですでお集まりいただいた皆さまから少しだけご質問やご意見があれば1つ2つほど受けたいと思います。いかがでしょうか。

**来場者** 大型MICE施設についてお聞きしたいと思います。与那原が大型MICE施設の建設地として決定してから2020年には開業ということを知っていましたが、いつ頃できるのかここで申し上げることが出来るのであれば嬉しいと思います。宜しくお願いします。

**立津氏** ご質問ありがとうございます。現在、財源の話やどの様な形で事業方針を進めるかということ鋭意調査を行っているところです。スケジュールについてもそのなかで調査を進めているところですので、時期が来ましたらしっかりご説明する場を設けたいと思います。

**堤氏** 時期が来ましたら報告会があるとのことですので期待しましょう。その他にどなたかいらっしゃいますか。

**来場者** せっかくの機会ですので、総合計画にも子どもの貧困について取組がありますが、私は健康被害が原因だと思っております。皆さんもご存じの通り沖縄の平均寿命はどんどん下がっております。今、働き盛りの世代が運動不足や食生活の乱れからどんどん病気になっているので、まずは町民の健康のために取り組んでいただきたいと思います。体の健康はまちの健康、そこから変えていく必要があると思っております。

**知花氏** 子どもの貧困問題でも食生活がグジャグジャになっていることが問題となっています。

**仲宗根氏** 食生活は非常に大事だと思います。それをどう改善していくかということが課題で、東京都の足立区の事例を挙げると、足立区は23区の中で最も貧困率が高く平均寿命も低いです。その足立区では地域全体の子ども達に関連する学校給食を改善する取組等を行っています。また、一部の地域では朝食を取れない生活リズムの子ども達への支援も行っております。特定の子もだけでなく地域全体の子ども達に目を向けた取組が大事だと思います。

**堤氏** ありがとうございます。もう時間も過ぎてしまっておりますのでこれでパネルディスカッションを終了したいと思います。パネリストの皆さまどうもありがとうございました。

# アンケート結果

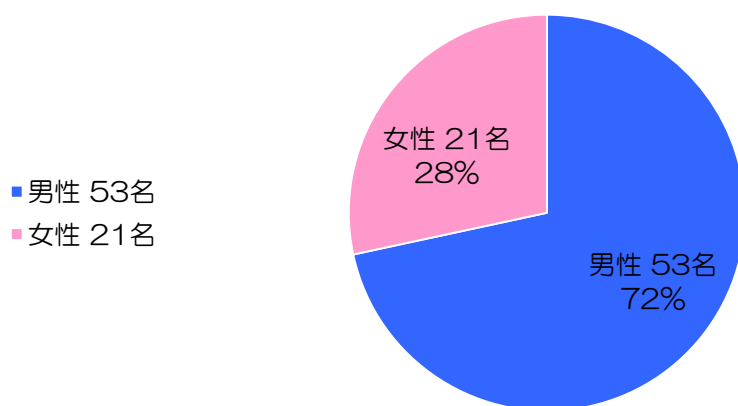
来場者数

106名

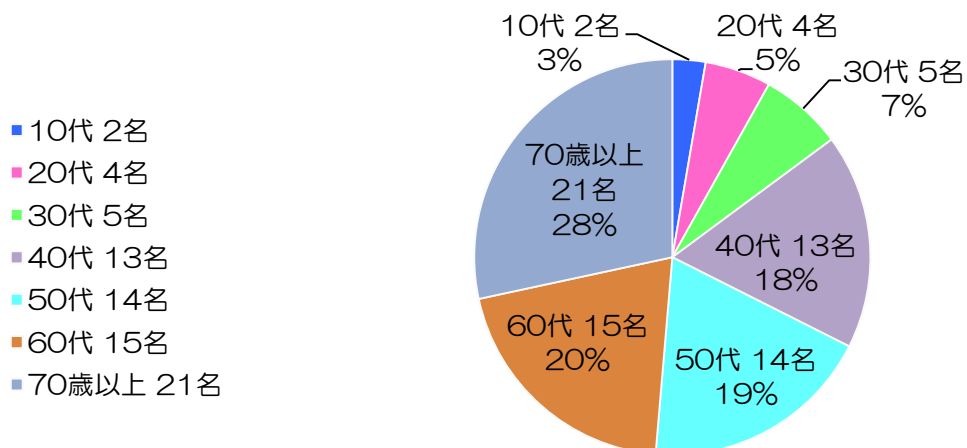
回答者数

74名（回収率70%）

## 1. 性別

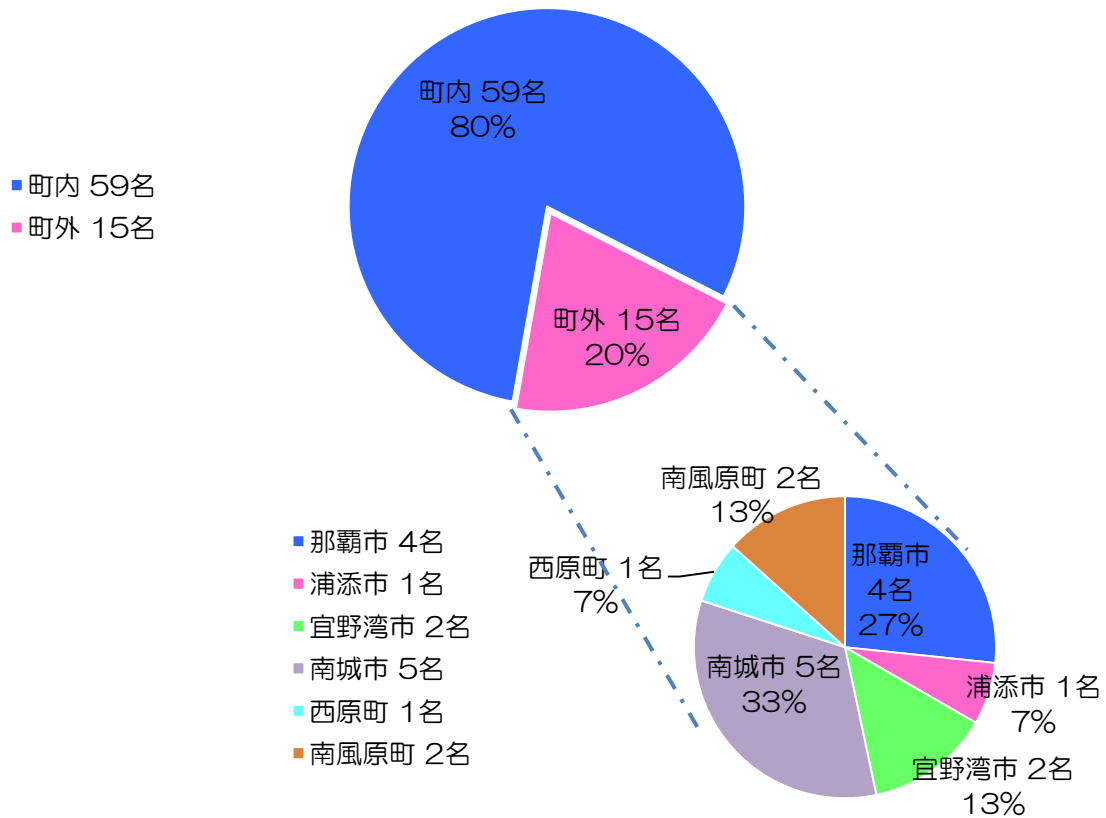


## 2. おいくつですか。

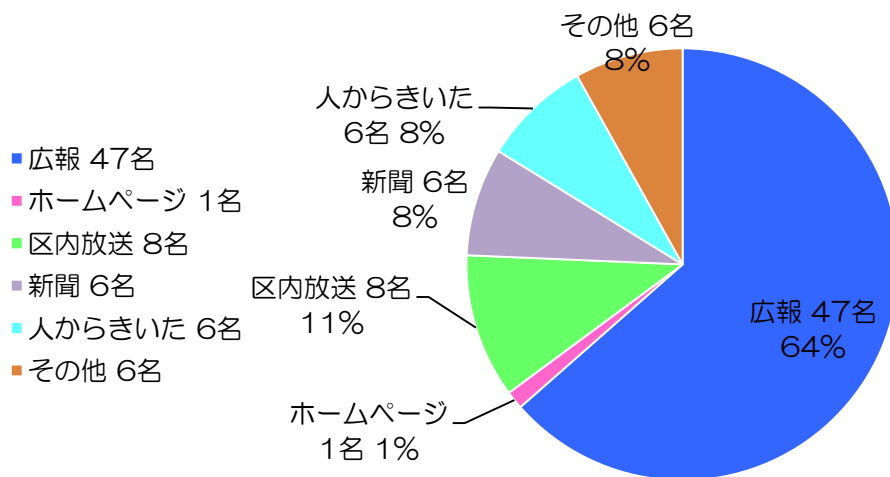


## アンケート結果

### 3. どちらにお住まいですか。

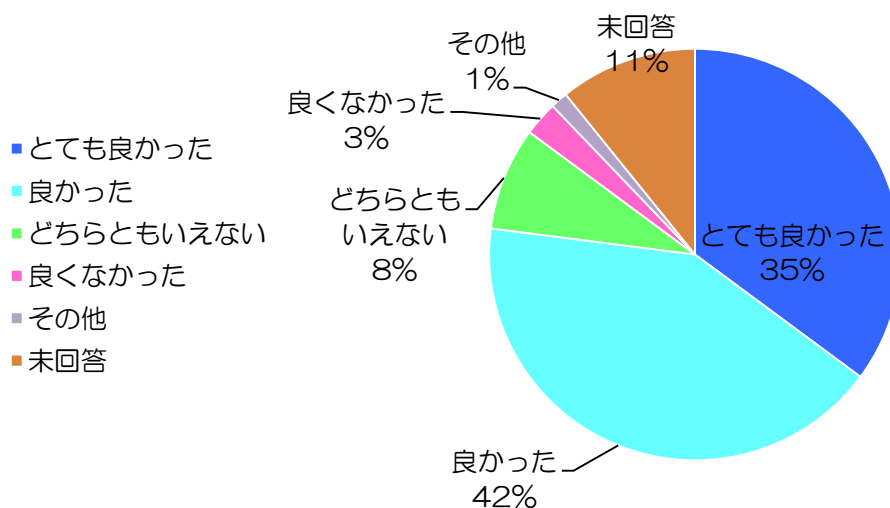
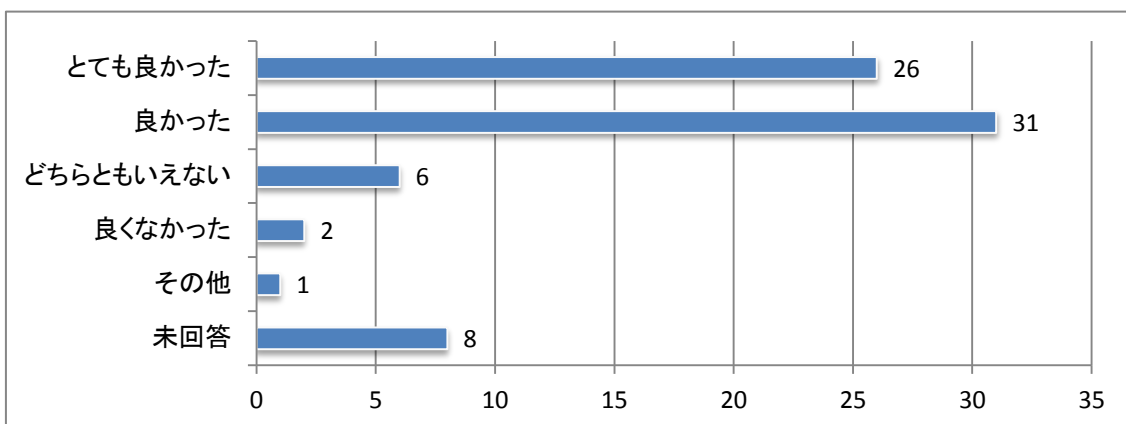


### 4. 本日のシンポジウムをどこでお知りになりましたか。



## アンケート結果

### 5. 本日のシンポジウムの内容は分かりやすかったですか。

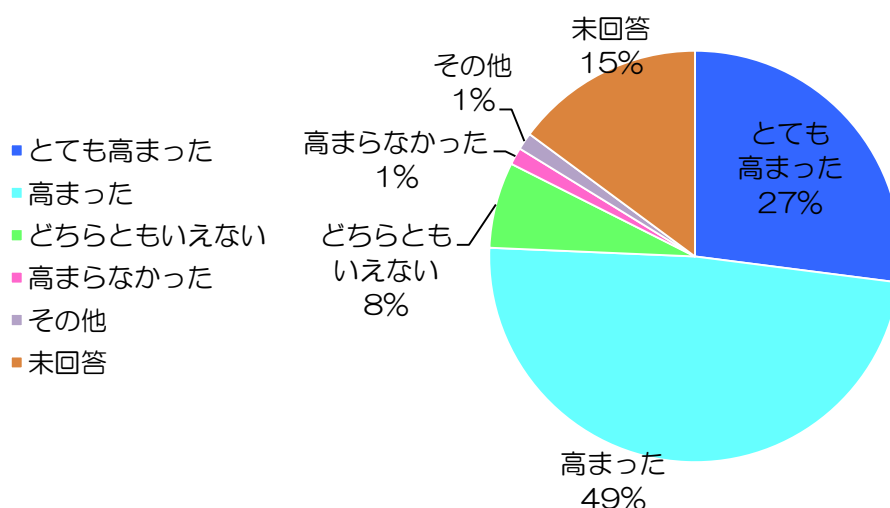
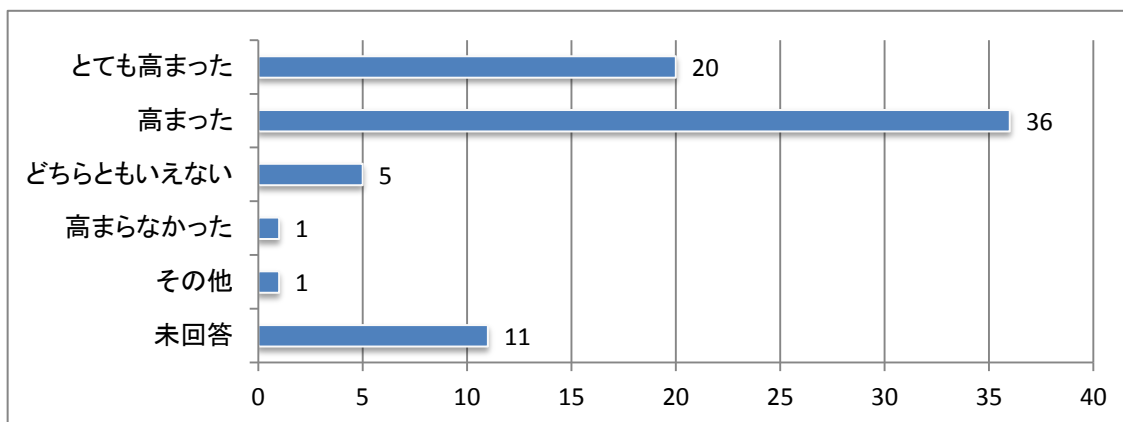


#### 【良かった点・悪かった点（自由意見）】

- 町の総合計画についての説明が分かりやすかった。パネルディスカッションもそれぞれの立場からのご意見を聞くことができ良かった。
- 今回策定された第5次総合計画の内容が分かやすく説明聞けて良かったです。
- 今後の町の取組について分かりやすく簡潔で話していただき理解しやすい内容だった。
- 与那原町のまちづくりに対して深く考える良い機会になった。参加者がもう少し多ければ良かった。
- 子どもの貧困で話された知花氏と地域の健康施策を話された仲宗根氏がうまくリンクして地域住民が「繋がる」ことの大切さを説いたのは良かったです。
- 堤先生の作成したグラフ（数値化・可視化）が分かりやすく興味深かった。知花様の貧困問題がこんなにも身近な事とは知らなかった（知らされた）。
- 時間の関係もあったと思うが、パネリストの説明をもっと詳しくしてほしい。
- 町民に対して場を設けたことは良いと思う。ただ、結局何が言いたいのかが分からなかった。県全体の課題に対しての説明が多いように感じた。もっと与那原町に限定したシンポジウムだと更に良かった。

## アンケート結果

### 6. これからのまちづくりに関心が高まりましたか。



#### 【今後のまちづくりに期待すること（自由意見）】

- 次世代を担う子どもたちの教育や子育て環境の充実。気軽に声をかけ合える地域（ご近所）。
- 軽便鉄道の歴史ある町としてLRTを与那原～那覇間に通して欲しい。
- 計画の通りまちづくりが実現（目標）が達成できれば素晴らしいと思った。MICEは実現するのか。
- まちづくりには当然植栽が関連すると考えるが、風土に合ったみどりの選定をしてほしい。MICEについてパネリストの話では良いことづくめだったが本当にそうなのか疑問です。
- ①PDCAは良いと思うのでぜひ管理を徹底してもらいたい。②スローガンや基本目標をもっと端的にシンプルにした方が良くと思う。③MICE計画の進捗について明快にってもらいたい。
- MICEより先に交通を整えてほしい。例えば北中城（ライカム周辺）の土日夕方の混み様をみると、それ以上に人が集中するMICEを考えると、毎回大綱曳まつりと思った方がいい。想像力を膨らませて計画してほしい。
- まちづくりはやはり人づくりが重要だと思います。全町で取組む貧困対策、健康づくりに力を入れてほしいと思います。
- 子どもたちが「今日よりも明日は良い日になる」と思える様な地域づくり。
- 子どもの貧困対策に大きな力を地域住民を大いに巻き込んで進めていただきたい。